

# 市長 コラム

文/笠間市長 山口 伸樹

## 次への挑戦



4月23日より新たな4年間の任期がスタートしました。これまでの取り組みや成果を基盤とし、公約の着実な実行を通じて笠間市のさらなる進化を進めてまいります。

議会や市民の皆さんをはじめ、関係機関の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

市政運営にあたっては、国・県との連携に加え、公民連携の取り組みを一層強化し、時代の変化に的確に対応した、積極的かつスピーディーな行政運営に努めてまいります。

人口減少が進む時代ではありますが、地域経済を活性化させるために企業誘致や農業、観光の振興、個人事業者への支援をはじめ、子育て環境の充実、不登校対策、医療、福祉、防犯体制の強化、さらには中心拠点のまちづくりなど、暮らしを支える施策を着実に推進し、活気と魅力あふれる笠間市を目指します。行政の政策推進には、議会や市民の皆さんのご理解とご協力が不可欠であります。丁寧な説明と建設的な議論を重ねながら、常に変わり続ける時代に応じた市政を実現してまいります。

今後4年間、よろしく申し上げます。

今月の

Pick up

市指定有形文化財に  
指定しました

文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産です。市では、市内に存する文化財のうち重要なものを市の文化財として指定し、保護を図っています。

令和8年3月24日付けで、如意輪寺（上市原）所有の「絹本着色毘沙門天像」「絹本着色水天像」「十一面観音坐像懸仏」と「穴戸文書」（追加指定）「穴戸家墓所出土遺物」（いずれも個人蔵）を笠間市指定有形文化財として指定しました。

絹本着色水天像は、徳川將軍家の菩提寺である寛永寺（東京都台東区）の仏画御用を務めた神田宗庭家の三代目善信により描かれた作品で、丁寧で濃密な描写と細かな文様表現が特徴です。また、穴戸文書は、八田知家の第四子家政を祖とする一族である穴戸家の歴史を知る上で貴重な史料群です。

今回の指定により、笠間市内の指定文化財は、国指定が8件、県指定が24件、市指定が123件、合わせて155件となりました。また、市内には、笠間市出身の日本画家である木村武山が建立した「大日堂」をはじめ、国の登録有形文化財が3件あります。かけがえのない文化財を守り、未来へ伝えていきたいと思います。



絹本着色水天像  
(如意輪寺蔵)

問 生涯学習課（内線381）